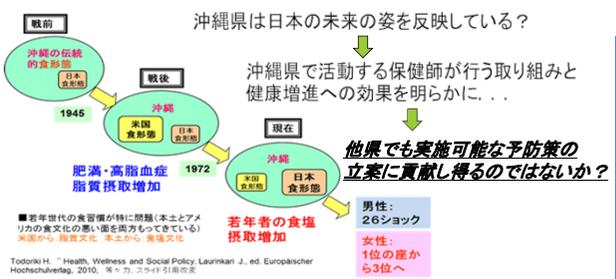


保健師が考える沖縄県の地域における生活習慣の現状と課題

- 健康問題を改善するための対策の検討 -

鹿取昂平, 鈴木拓真 旭川医科大学医学部看護学科

緒言

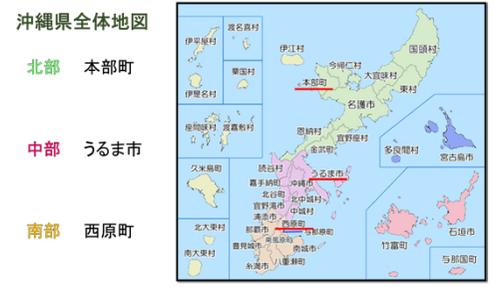


研究目的

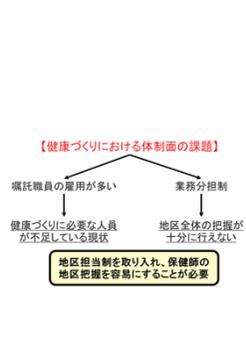
沖縄県の市町村で活動する保健師を対象に、沖縄県民の生活習慣の現状と課題を明らかにし地域住民の健康増進対策に対する示唆を得る

- 方法**
- 研究対象 1市2町に勤務する保健師4名とした。
 - 調査方法 2017年8月、各市町の庁舎内の個室を借用し、学生2名が保健師1名に対し60分程度半構造化面接を実施した。その際、対象者の了解を得て録音した。
 - 調査内容
 - 1) 対象者の属性: 年齢、性別、保健師経験年数
 - 2) インタビュー内容
 - ① 沖縄県全体と市町村の地域特性の意識
 - ② 沖縄県全体と地域における健康問題と思考
 - ③ 地域住民の健康意識
 - ④ 健康保持増進のための取り組みや工夫と効果
 - ⑤ 保健師活動の目標
 - データ分析方法 質的記述的研究デザインとした。録音した内容から逐語録を作成し、保健師が考える沖縄県の地域における生活習慣の現状と課題に関するデータを抽出し、コード化した。コードを意味内容により類似分析したサブカテゴリーを作成、さらに抽象度を上げたカテゴリーを作成した。
 - 倫理的配慮 旭川医科大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号: 17039)。本研究の目的と方法、内容、参加の自由意志、不参加により不利益を被らないこと、同意撤回も可能であること、研究全般にわたる匿名性の確保をすることを、調査対象者に文書および口頭で説明し、同意書に署名を得た。

結果・考察



| カテゴリー 1 | サブカテゴリー |
|-----------------|----------------------|
| 県が抱える健康課題 | 県全体として生活習慣病が多い |
| | 腎疾患の多さが顕著 |
| | 健診未受診者の潜在的な糖尿病重症化 |
| | 精神疾患、循環器疾患を有病とする人が多い |
| 地域特性による健康意識の格差 | 若者の伝統食離れ・食の西洋化 |
| | 車社会という地域性から運動習慣がない |
| | 所得格差と健康意識の関連 |
| 健康づくりにおける体制面の課題 | 嘱託職員が多く人員確保が困難な体制 |
| | 業務分担制のため地区全体の把握が困難 |



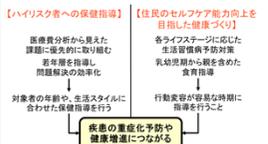
| カテゴリー 4 | サブカテゴリー |
|------------------------|------------------------|
| 健診受診率向上の取り組み | モデル地区設定による夜間・休日の健診 |
| | 未受診者への訪問や電話による関係づくり |
| | 健診受診継続の必要性の指導 |
| | 大学・企業との連携による問題意識の共有 |
| ハイリスク者への保健指導 | 職域全体の波及効果を狙った代表者への働きかけ |
| | 検査キットを持って訪問し自分の現状理解を促す |
| | 医療費分析から見えた課題に優先的に取り組む |
| 住民のセルフケア能力向上を目指した健康づくり | 若年層を指導し問題解決の効率化 |
| | 各ライフステージに応じた生活習慣病予防対策 |
| | 乳幼児期から親を含めた食育指導 |
| | 食生活の問題と疾患との関連について指導 |
| 保健活動による効果 | 運動の習慣化を促す取り組み |
| | 禁煙をはじめとした施設的环境整備 |
| | 住民同士の絆を大切にしたい地域づくり |
| カテゴリー 7 | サブカテゴリー |
| | 保健指導の徹底による未受診者受診率の向上 |
| | 経年的に見た医療費の伸びの鈍化 |
| 健康づくりによる効果 | 啓発活動による住民の意識向上への手応え |

【健診受診率向上の取り組み】

モデル地区設定による夜間・休日の健診 大学・企業との連携による問題意識の共有

未受診者への訪問や電話による関係づくり 職域全体の波及効果を狙った代表者への働きかけ

地域のカンパニオンに働きかけていくことも受診率向上の方策として重要



結論

今回の研究を通して、沖縄県の地域における健康課題は全国が抱える課題との大きな差異は見られなかった。しかし、保健師は地域特有の課題を見出し、様々な取り組みを行っていた。今後の課題として、**地区全体を把握し住民との関係づくり**を強化していくことが健康増進対策の推進に重要と考える。